

4 みんなとつながって

(8) 世界の人々とつながって

P.176~183

4-(8)

外国の人々や文化を大切にすることをもち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。

1 この内容項目のページの特徴

国際理解と親善の心をもった児童を育てようとする内容項目であり、国際化への対応として、外国の人々や異なる文化に対する理解と尊敬の念が重視される。また、単に国際理解にとどまることなく、日本人としての自覚をもって積極的に外国の人と接したり、交流の場に参加したりするなどして、国際親善に努めようとする態度を育むことが大切である。

本内容項目のページは、国際交流や国際親善に努めた人物の思いや活動などが紹介されている。これらの人物の活動の源となっている思いについて考えることで、外国の人々や文化を大切にすることをもち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする態度を育てていくことができる。

2 活用のポイント

先人や著名人などの人物の思いや活動を取り上げたコラムが多く、伝記などを読む読書活動とも関連を図ることができる。また、外国の人々や文化については、社会科や外国語活動と関連して学習することもできる。活用にあたっては、他の教科等とも関連させた計画的な指導を行うようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一七七・一七九ページは、世界の人々との交流や親善に早くから目を向け、尽力した人物が紹介されている。その人物の思いを知って、自らも外国に関心をもち、世界の人々との親善に努めようとする態度を養う際に活用することができる。

事例

- ① 一七九ページの「世界を結んだオリンピック」を読み、平和の祭典である近代オリンピックの始まりについて知る。
- ② 読み物資料「ペルーは泣いている」を読んで話し合う。
- ③ 外国の人々や文化に関わったり交流したりした経験を振り返って話し合う。
- ④ 一七七ページの坂本龍馬と新渡戸稲造の言葉を読み、自分がどのようにして世界の人々と関わり、親善に努めていくことができるのかについて話し合う。

総合的な学習の時間

国際理解を主な課題とした探究的な学習を行う際の動機付けとして、一七六・一七七ページを活用することができる。

事例

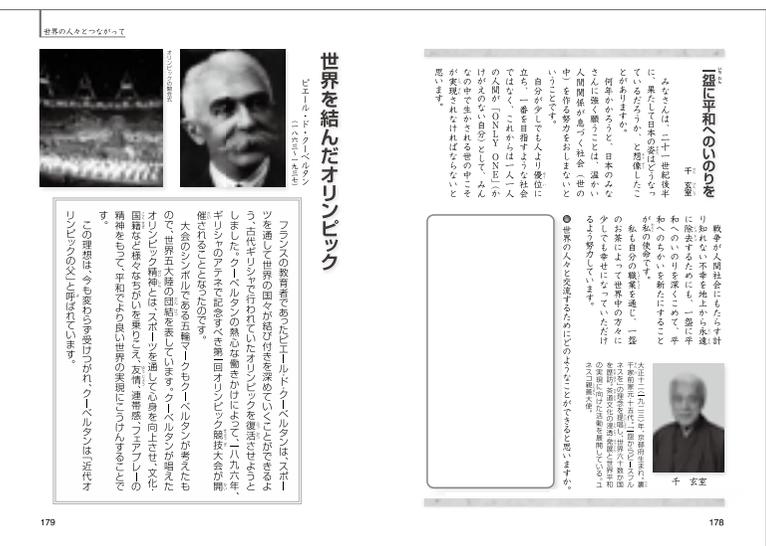
- ① 一七六・一七七ページを読み、世界に関心をもち、国際理解や国際親善について考えていることを話し合う。
- ② 国際理解という共通テーマの下に、外国の文化や風習、外国の人々との交流など探究したい課題を決める。
- ③ 課題に関して、インタビューをしたり、本やインターネットで調べたりする。
- ④ 調べたことから分かったことや考えたことなどを整理してまとめる。
- ⑤ 整理してまとめたことを発表する。



P.176~177

家庭との連携

道徳の時間において、本内容項目について学習した後、家庭で一七八ページを読んで、家の人と感想を話し合う。話し合いをきっかけに、自分が何ができるのかを考え、一七八ページの書き込み欄に記入する。家の人の思いや考えを聞くことで、国際親善のための様々な活動や行動について考えを広げることができる。



P.178~179

ペルーは泣いている

P.180~183

4-(8)

1 資料の特性

一九六七七年の女子バレーの世界選手権での実話を基にした資料である。加藤明（アキラ）は、ペルーの女子バレーボールチームの監督になり、文化や習慣の違いを乗り越え、ペルーの選手たちと心を通わせてとうとうペルーチームを南米一位にまで導いた。彼が亡くなったときには、「ペルーは泣いている」と新聞で報じられ、その九年後には、アキラの名前を付けた小・中学校が建てられるほどであった。

外国の文化を理解して積極的に交流し、国際親善に努めたアキラの姿から、外国の人々や文化を大切にし、日本人としての自覚をもって交流に努めようとする意欲を高めることができる資料である。

2 指導上の留意点

国際化が進展する中であって、外国の人々と関わる際には、外国の人々や異なる文化に対する理解と尊敬の念をもち、日本人としての自覚をもって交流することが大切である。

ペルーの人々に慕われたアキラの生き方について考えることを通じて、外国の人々との交流の在り方についての理解を深め、国際交流に努めようとする意欲を高めていきたい。

3 展開例

【ねらい】

外国の人々や文化を大切にしようとする心をもち、世界の人々との交流に努めようとする意欲を高める。

事例①

開 アキラの思いを通して、国際交流について考える展開

【主な学習】

① アキラは、どのような思いから、ペルーの女子バレーボールチームの監督になろうと思ったか。

・ なんとんでもペルーチームを強くしてみせる。

・ 国の文化や習慣の違いが心配だが、大丈夫だと信じよう。

・ 自分にできるか不安だが、ペルーチームのために頑張ってみよう。

② 何人かの選手が耐えられなくなって辞めていったとき、アキラはどのような気持ちだったか。

・ このままみんなが辞めてしまったらどうしよう。文化や習慣の違いは越えられないのだろうか。

・ 国の習慣などは違うが、いつか分かってもらえるはずだ。

・ まずは私がペルーの習慣などを理解しよう。そうすれば、私の思いも理解してもらえるのではないか。

③ 自分が段々とペルーの人になっていくように感じたアキラは、どのような気持ちだったか。

・ ようやく分かってもらえるときが来てうれしい。

・ ペルーの文化もいいものだ。もっと理解していきよ

うにしたい。

④ 「上を向いて歩こう」を、ペルーの選手たちが歌っているとき、アキラは、どのような気持ちだったか。

・ 自分の思いが、国を隔ても通じてよかった。

・ 他の国の人とも分かり合うことができた。

⑤ 今まで外国の人とどのように交流してきたか。また、そのとき、どのような気持ちだったか。

・ 海外旅行に行ったとき、英語で話し掛けたら、少し通じてうれしかった。

・ 隣の家にホームステイしているお姉さんから、その国の文化や食べ物などを教えてもらった。自分も折り鶴の折り方を教えてあげた。

事例②

ペルーの選手たちの思いを通して、国際交流について考える展開

【主な学習】

① 毎日、五時間の練習が課せられたとき、ペルーの選手たちは、どのようなことを考えたか。

・ ペルーでは、そんな練習の仕方はしない。

・ ここは日本ではないのだから、ペルーのやり方で練習したい。

② アキラが食事に連れていってくれたとき、ペルーの選手は、どのような気持ちだったか。

・ 自分たちのことを理解しようとしている。

・ アキラは、自分たちのことを考えてくれている。

③ ペルーの選手が、表彰式の後、「上を向いて歩こう」を涙をこらえて歌った場面で、彼女たちがアキラを本

当の父親のように感じていたのはどのような思いからか。

・ 四位という結果は残念だったけれど、アキラは私たちに心を通わせて、バレーの指導をしてくれた。

④ 国際交流に関わっている人をゲストティーチャーとして招き、取り組んでいることやその思いなどについて話を聞く。

⑤ 世界の人々と交流するためにどのようなことができると思うか。



情報モラル

情報社会に生きる私たち

P.184~187

1 ページの特徴

情報モラルとは、情報社会で適正に活動するための基になる考え方と態度であり、その具体的な内容としては、個人情報保護、著作権等に対する対応、危機回避やネットワーク上のルール、マナーなどが一般に指摘される。情報モラルに関するページでは、コンピュータや携帯電話などの情報機器の便利な点やよい点を考えたり、情報機器利用の実態をグラフから考えたりすることができ、また、インターネットをどのように使えばよいのか、いくつかの場面を設定して具体的に考え、話し合うことができるようになってきている。

2 活用のポイント

情報モラルについては、節度、責任、誠実、礼儀や思いやり、友情、法やまじりの遵守などの様々な道徳の内容との関連が考えられる。そうした視点から、情報化がもたらす問題について考えさせるようにしたい。高学年の段階になると、学校や家庭など様々な場面で情報機器に触れる機会が多くなり、トラブルに巻き込まれることも考えられる。そこで、道徳の内容との関連を踏まえつつ、情報機器の利用に当たっての注意点、また情報機器の利便さやよさを生かした使い方などを具体的に

の使い方を具体的に考えることができる。

事例

- ① 一八四ページを読んで、情報機器の利便さやよさ、危険や問題点などを話し合う。
- ② 読み物資料「知らない間の出来事」を読んで話し合う。
- ③ 一八七ページを読んで、このような状況に置かれた場合、友達や他の人とのコミュニケーションを図る際に気を付けなければならないことを話し合う。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「基本的な生活習慣の形成」「カキ心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導に当たって、一八四から一八七ページを活用することができる。

家庭や地域との連携

情報モラルに関する意識を高め、適切な情報機器の使い方や身に付けていくためには、家庭と連携した取組が重要である。

日頃から一八四から一八七ページを活用して、情報機器の使い方や家の人と共に考えることで、情報モラルに関する意識を高めることができる。

また、授業参観などの際に、家庭や地域の人の参加を得て情報モラルに関する学習を行うこともできる。

事例①

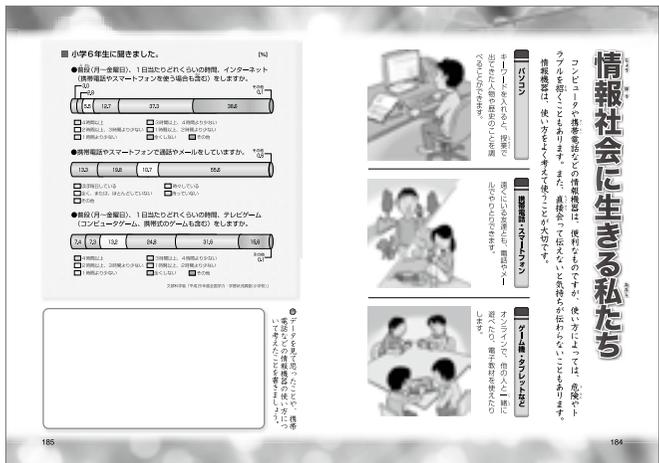
- ① 一八五ページのグラフから、情報機器利用の実態を読み取り、自分の状況と比べて思ったことを家の人と話し

に考えるようにしたい。そして、これらを基に情報を適切に扱う方法やルール、マナーを守り、相手を思いやり、発信に責任をもつことなどについて指導していくようにしたい。

3 活用場面例
道徳の時間

情報モラルに関する指導に当たっては、関係する道徳的価値の学習に際して、一八四から一八七ページを活用することができる。

一八四・一八五ページを読んで、情報機器の利便さやよさ、危険や問題点などを話し合った後、一八五ページのグラフから情報機器の利用の実態を読み取り、自分自身のこと考えたりすることができる。また、一八六・一八七ページは、節度、責任、思いやり、友情などに関連して、インターネット



P.184~185

し合う。

- ② 一八四から一八七ページを家の人と読んで、インターネットの使い方について話し合う。
- ③ インターネットを使うときの約束事を家の人と話し合っ
- ④ 決めた約束を一八五ページに記入する。

事例②

- ① 家庭や地域の人を加えてグループになり、一八六・一八七ページの各場面についてのよ
- ② それぞれの場面での問題点を全体で話し合う。
- ③ 情報機器に関する専門家をゲストティーチャーとして招き、情報機器
- ④ 話を聞いた感想や学んだことをグループで話し合う。



P.186~187

「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校	
1 主として 自分自身に関すること	(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わかまをしないで、規則正しい生活をする。	(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。	(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。	(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	1 主として 自分自身に関すること
	(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。	(2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。	(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。	(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	
	(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。	(3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。	(3) 自由を大切に、自律的で責任のある行動をする。	(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。	
	(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	(4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気に生活する。	(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。	(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。	
		(5) 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。	(5) 真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。	(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	
2 主として 他の人との かかわりに 関すること	(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。	(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。	(1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。	(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	2 主として 他の人との かかわりに 関すること
	(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。	
	(3) 友達と仲よくし、助け合う。	(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。	(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。	(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	
			(4) 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすること。	(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。	
	(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。	(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ。	
3 主として 自然や崇高な ものとの かかわりに 関すること	(1) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。	(1) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。	(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。	(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。	3 主として 自然や崇高な ものとの かかわりに 関すること
	(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。	(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすること。	(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める。	
	(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	(3) 美しいものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ。	(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。	
4 主として 集団や社会との かかわりに 関すること	(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。	(1) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。	(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。	4 主として 集団や社会との かかわりに 関すること
			(2) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。	(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。	
	(2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。	(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。	(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。	(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。	
	(3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。	(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。	(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。	(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	
	(4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しむ。	(4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。	(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。	(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。	
(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	(5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ。	(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。	(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。		
	(6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。	(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	(7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。		
		(8) 外国の人々や文化を大切にすることをもち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。	(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。		
			(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。		
			(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。		